

# 知的障がいの理解のために ~あなたに出来ること~

知的障がいとはなんでしょう。知的障がいのある人とはどんな人なのでしょう。

たとえば、言葉を使ったり記憶したり抽象的な事を考えたりすることが苦手で、ほかの人より時間がかかったり出来なかったりします。

また、仕事の手順をすぐに覚えたり、人とのやり取りに機敏に対応したりするのが難しいことがあります。

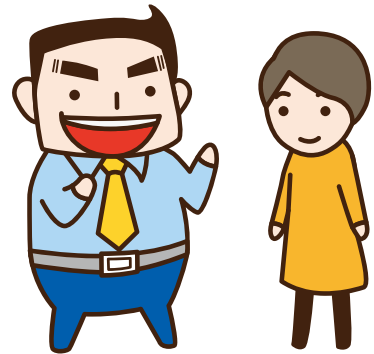
でも、知的障がいだからまったくできないと言うわけではありません。一人ひとりに違いがあります。外見から見えないのでわかりにくいのですが、同じ目線で話しかけましょう。一人ひとりの特徴が見えてくると思います。

## コミュニケーションのために

知的障がいがあるからと言って、コミュニケーションがとれないという訳ではありません。一人の仲間として普通に声をかけてください。ただ、次のようなことに気をつけましょう。

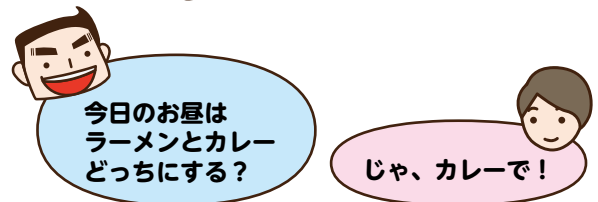
### ①言葉と一緒に身振りや絵などを使う

言葉の理解が遅れていることがあります。そのため、話しかけられても、何を言われているのか理解できないことがあります。そんなときに、身振りや絵・写真などを見せながら、声をかけると伝わる場合があります。



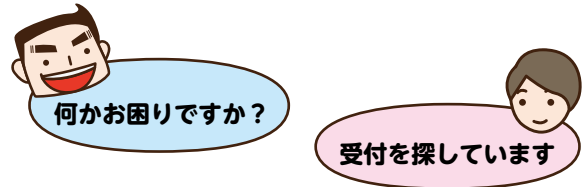
### ②答えやすい聞き方にする

自分で答えを探し出さないといけない質問、例えば「どうする?」「どう思う?」は、答えが思いつきにくい場合があります。答えを二者択一のように選ぶ形にしましょう。



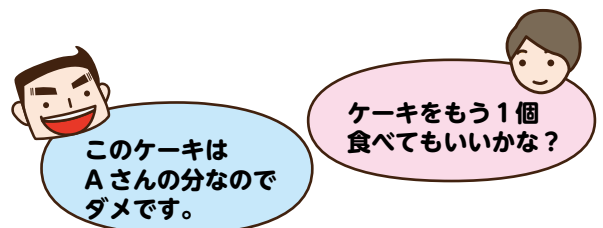
### ③困っているかどうかを見る

知的障がいがあっても、一人で出来ることはたくさんあります。外見の様子だけでは本当に困っているのか判断もむずかしいですが、もし困っていたら必要な手助けをしましょう。



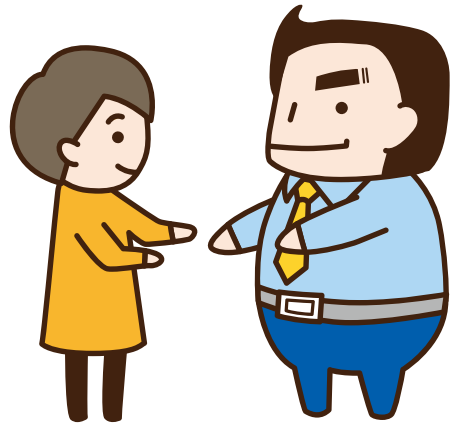
### ④はっきり伝える

あいまいな言い方や表現は伝わりにくいことがあります。やめてほしい時は、「やめて」とはっきり伝えましょう。あいまいにして逃げるといった行為は、意味がわからないので、逆に追いかけて来る場合もあります。



### ⑤ ゆったりとした気持ちで接する

その年齢なら本来わかっているべきルールが、身につけていないことがあります。どんなことでも許したり我慢する必要はないのですが、責めないでください。注意してもすぐに直らないかもしれませんが、根気よく接することが大切です。



### 特別な人ではありません

知的障がいのある人の特徴として、複雑な事柄の理解や判断、こみいった文章や会話を理解することや、おつりのやりとりのような日常生活の中での計算などが苦手なこととしてあげられます。

一見しては障がいがわかりにくく、少し話をただけでは障がいがあることを感じさせない人もいます。しかし、未経験の出来事や急な変化への対応が困難という人が多く、自分のおかれている状況や抽象的な表現を理解することが苦手だったりします。

特徴の現れ方には個人差が大きく、支援の仕方は一人ひとり異なります。そのことを、まず理解しましょう。



### 「何もわからない・自分では何もできない」は誤りです

知的障がいのある人の中には、周囲の状況に関係なく自分の関心などにこだわって夢中になってしまう人がいます。例えば、電車で「車内アナウンス」をまねしたり、大きな声で独り言を言い続けたりすることもあります。

しかし、そのような行動から知的障がいのある人を不思議に思い、さらに「何もわからない」「自分では何もできない」と決めつけることは大きな誤りです。

また、障がいの重い軽いに関わらず、うれしいとか悲しいという気持ちは障がいのない人と変わりありません。周囲の人の気持ちや環境の変化は敏感に感じ取っていますが、それを言葉で表現することが、難しかったりできなかつたりするのです。



## 大切なのは「偏見」のバリアを取り除くこと

知的障がいのある人に接するときに必要なのは、こわがったり、じろじろ見たり、無視しないことです。

線路の上を歩いているといった危険な行動をとっている時や、予定外の出来事にぶつかって本人が困っている時に、関心を向けてサポートしましょう。

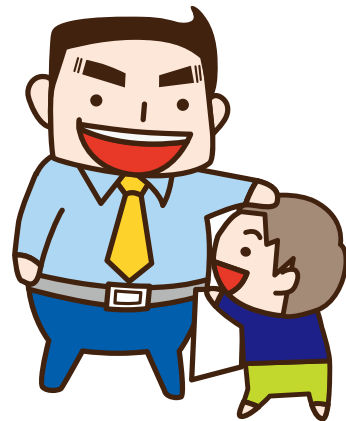


## ほめることも大切です

小さい子供たちにとって、「ほめる」事はとても大切なことだという事は皆さん知っていますね。

知的障がいのある人も同じです。知的障がいのある人は、私たちより少し苦手なことが多いのです。だからちょっとした事でもほめられるととてもうれしくなります。

「これくらい普通」ではなく、「こんな事もできるんだ」とほめる所を見つけましょう。



## 障がいがあっても社会に参加しています

学校を卒業した知的障がいのある人の多くは、会社や地域の福祉施設・作業所などで、障がいのない人たちと同じように働いています。

知的障がいがある人が働くにはちょっとした工夫が必要です。

たとえばいろいろな人が指示を出すと、障がいのある人が混乱するので、指示を出す担当者を一人に決めるなどです。

また、計算が苦手な人には、計算をしなくても済むような工夫や、作業の手順を順番に掲示しておくなど、雇う側のちょっとした思いやりが必要です。

知的障がいのある人が一般就労をする場合、初めは支援センターから派遣されるジョブコーチに付いてもらうことが望めます。ジョブコーチが間に入ることで、企業の担当者は障がいのある人の特徴を知り適切な指示ができるようになり、障がいのある人は支援を受けながら仕事に慣れていくので、次第に仕事ができるようになります。

障がいのある人でも一生懸命働いています。喫茶店で働いている人や街で作品を販売している人を見かけたら、みんなでやさしく見守りましょう。

障がいのある人もない人もみんな幸せに暮らせる街を作りましょう。

福祉施設で働く



ボランティア活動する



喫茶店で働く



厨房で働く



イベントや祭りに参加する



商店で働く



ジョブコーチによる支援



ジョブコーチとは障がいのある人が一人で働けるように支援する職員です

## あなたに出来ること

知的障がいのある人も、一般の人と変わりなく感情があります。優しく接してもらえばうれしく、ばかにされれば悲しくなります。一般の人と同じように、いろいろな性格の人がいるので、身近に障がいのある人がいたら、一人の人間として、その人のことを知って、その人が笑顔になるようなことを考えましょう。

### 主な相談機関

- ◆新発田市役所(社会福祉課)
- ◆緑風園相談室
- ◆障がい者就業生活支援センター アシスト

### 主な支援団体

- ◆NPO法人新発田市手をつなぐ育成会